

<寿都町立寿都中学校における土曜授業の取組>

1 地域の漁業協同組合と連携した漁業体験学習の取組

【ポイント】

- 専門的な技術等を有する地域の人材を活用すること
- ふるさとの基幹産業である漁業体験を位置付けること



【効果】

- ・土曜日に、漁業体験を実施することで、漁業関係者の協力が得やすくなるとともに、生徒に寿都町内の職業・漁業への理解を深め、郷土に対する愛着を育むことができた。

2 高齢者福祉施設への訪問の取組

【ポイント】

- 高齢者と共に体験活動を行うこと
- 人との触れ合いを大切に活動位置付けること



【効果】

- ・土曜日に、福祉施設を訪問することで、体験活動を行う時間を十分確保するとともに、高齢者と共に活動することで、高齢者への思いやりの心と郷土の発展に貢献した人たちへの尊敬の念を育てることができた。

土曜授業の広場

中頓別町立中頓別中学校

① クリーン作戦について(5月13日実施)

1 ねらい

- ・地域行事に参加することにより、地域社会の一員である自覚を深めさせる。
- ・異年齢集団による活動を実施し、運動会でのチームの団結力を高める。

2 内容

- ・生徒会執行部から挨拶及び取組内容の説明を行う。
- ・運動会のチームに分かれ、2つのコースで清掃活動に取り組む。



3 成果と課題

- 運動会のチーム作りの最初の段階として、1つの作業に共同で取り組むことは団結力を高める上で効果があった。
- 生徒は、校外に落ちているゴミを積極的に拾っており、意欲的に活動に取り組む様子が見られた。
- 地域及び小中で活動に取り組んでいることから、より一層の連携を図り、活動内容を充実させる必要がある。



② 親子ふれあい広場について(10月21日実施)

1 ねらい

- ・PTAで実施している親子レクリエーションと関連させ、子育て環境の整備・充実の一環として、生徒・保護者・教師がスポーツや文化的活動を通してふれあう場とする。

2 内容

- ・ユニホック(体育館)
- ・ジェルキャンドルづくり(理科室) など



3 成果と課題

- PTA活動の充実及び積極的な参加を促進するため、PTA拡大役員会の場で活動内容について協議を重ね、保護者が主体となって運営に取り組むことができた。
- 参加者はそれぞれの「交流種目」に参加することで、親子の交流を進めることができた。
- より多くの保護者に参加していただけるよう、地域人材を活用した活動など、内容の工夫を図る必要がある。



地域とともにある土曜授業の実践

稚内市立稚内中学校

1 はじめに

本校は、生徒数118名の中学校で、今年で開校71年目を迎えます。本校では、「地域で輝く稚中生」をスローガンとして、地域との繋がりを大切にした教育活動を展開しています。また、稚内市は世界で初めて『子育て平和都市宣言』を採択した地であり、地域全体・市民ぐるみで子育てを支援するという土壌ができています。

本校では平成26年度から平成28年度の3年間、「北海道士曜授業推進事業研究指定校」として取り組んだ実績を生かし、今年度も土曜授業を実施しています。土曜授業を保護者・地域住民に公開し、地元の教育資源・人材を積極的に活用した「地域とともにある学校づくり」の推進に努めています。

2 今年度の土曜授業の主な内容

◎新聞回収

春と秋に、生徒と保護者が校区の住宅を1軒1軒回り、新聞を回収しています。生徒数の減少もあり、今年から校区の町内会育成部長に協力をお願いしたところ、多くの育成部長や卒業生の保護者の方の協力をいただきました。



◎てっぺんどさん子・学び合いカップ

全校生徒が体育館に集まり、学年別に出された教科の問題に取り組むものです。最初に自分の力で問題に取り組み、その後、同学年の仲間とはもとより異学年間でも問題に対する解き方や考え方について、お互いに教え合い、確認します。最後は、また学年別の問題に取り組み、学級ごとの平均点を競います。

◎飛躍の日・てっぺんどさん子元気アップチャレンジ

「飛躍の日」とは、生徒と保護者が卓球やバスケットボール、バドミントン等のスポーツ交流をとおして、仲間との絆、親子の絆を深めるもので、毎年50～60名の保護者の参加をいただいています。「てっぺんどさん子元気アップチャレンジ」は、体育で行った体力テストの種目の中から自分の得意とする3種目を選び、更に記録を伸ばそうという取組です。今年は、保護者の方にも呼びかけて体力テストにチャレンジしていただきました。



◎子ども芸能祭（南中ソーラン祭）

稚内市では、毎年8月に「南中ソーラン祭」が行われており、稚内中学校では、全校生徒で参加しています。昨年、開校70周年を記念し、伊藤多喜雄さんに『稚中ソーラン』を創っていただきました。



◎外部人材を活用した取組

人権擁護委員を講師とした「人権教室」、稚内聾唖協会の協力による「手話教室」、地元高校の教員による授業、法務局職員による「法教育」、また進路に関する学習の一環として大学のオープンキャンパスへの参加や「夢は医者！☆未来を拓く講話会」として医師からの話を聞く機会を設けました。他にも、合唱指導に講師を招くなど、土曜授業だからこそできる外部人材の活用に努めています。

3 おわりに

土曜授業の実施によって、日常の「稚中式学び合い授業」との相乗効果による「学ぶ意欲」の向上が見られました。また、外部講師の活用によって地域との繋がりを一層強く感じ、進路に対する意識が高まるなどの成果が見られたこともあり、土曜授業に対するアンケートの結果からは、規則正しい生活習慣が身に付くなどの理由から、生徒の約50%、保護者の約90%が、土曜授業の実施を希望しています。

他の週休日や休日における市内・町内会行事への教職員の参加もあり、教職員の負担軽減や部活動等の大会と日程が重なるなどの課題はありますが、今後も質の高い土曜授業の実施に向けて内容を工夫していきます。

1. ねらい

- (ア) 生徒一人ひとりの基礎・基本の習得、学習・生活習慣の確立を目指す（学力向上の場）
- (イ) 心育ちの場として、豊富な知識・経験を持つ社会人等、外部人材の協力を得ながら、教育活動を実施する。（心育ちの場）
- (ウ) 保護者や地域住民への公開による開かれた学校づくりをする。（開かれた場）
- (エ) 学び合い活動を取り入れながら、生徒どうしの関わりを大切にする。（学び合いの場）

2. 年間計画（年間9回）

4月15日	授業参観日	11月11日	学び合い学習
4月30日	春の地域活動	11月25日	授業
7月15日	南地区子育て平和夏祭り	1月27日	道徳公開授業
8月26日	稚内市子ども芸能祭	2月24日	学び合い学習
10月28日	講話会（外部から講師招聘）		

3. 内容

年間9回の土曜授業を実施し、授業と土曜日だからこそできる活動を組み合わせて実施しています。9回のうち6回は地域・保護者と連携した取組であり、本校の教育方針や生徒の実態などを発信する場となっています。

①春の地域活動

町内会と連携し、地域ボランティアとして古紙回収を実施しています。

②南地区子育て平和夏祭り

町内会の祭りで、出店の手伝いや運営に関わります。また、「南中ソーラン」を地域の人々に披露しています。

③稚内市子ども芸能祭

稚内市の行事に全校生徒で参加し、「南中ソーラン」を披露しています。地域への日頃の感謝を表します。

④講話会

札幌から起業家を呼び講話会を開催します。学び続ける大切さについて考えます。



稚内子ども芸能祭の様子



講話会の様子

4. 成果

- ①土曜の生活リズムが崩れなくなり、翌週からのスムーズな学校生活に繋がっています。
- ②地域・保護者に、生徒の実態や教育活動が周知され、協働・連携がしやすくなっています。
- ③外部講師を招くことにより、視野が広がり、学ぶこと、人と繋がること、目標をもつこと等、よりよく生きる意識に繋がっています。
- ④学び合い活動を取り入れた学習によって、学習意欲が高まるとともに、学習規律の定着が見られます。
- ⑤授業時数が確保されたことで、平日の授業に余裕をもって取り組んでいます。

5. その他

生徒・保護者ともに土曜授業への評価は高くなっており、否定的な声はほとんどありません。課題は、部活動の大会と土曜授業が重なることで、生徒本人と保護者と相談しながら、土曜授業の取組を進めています。

土曜授業の紹介（地域での体験活動を工夫した取組）

稚内市立潮見が丘中学校

1 これまでの経過

これまで本校では、地域貢献活動として、古紙回収の活動を春・秋の年2回、「父親の会」と部活動の有志生徒で行ってきました。

昨年度の土曜授業実施に伴い、地域貢献活動を教育課程に位置付け、全生徒が地域における体験活動に取り組むことができるよう、土曜授業での地域貢献活動が今年度で2年目を迎えました。



2 活動内容

- ・5月と10月に年2回、校区内に事前にチラシを配布し、古紙回収の告知をします。
- ・「父親の会」を中心に、地域の方々の協力を得て、トラック等を用意していただきます。また、当日のトラックの運転手など、生徒と一緒に参加できる方の協力を依頼します。
- ・生徒の担当地域を決定し、生徒会が中心となって、活動班のリーダー会議を事前に行い、当日の古紙回収の準備を行います。
- ・活動後、生徒会が作成したお礼の文書を、校区内の全戸に投函します。



3 本活動の成果

- ・教育課程に位置付けたことにより、これまで一部の生徒が参加していた活動に、全校体制で取り組むことができました。
- ・生徒一人一人が地域の方々と関わることで、生徒の様子を地域の方に知っていただくとともに、地域の方々が生徒や学校を見守っていてくれることを実感できました。
- ・土曜授業で地域貢献活動を実施することにより、「豊かな学び」、「豊かな心」を育成することができました。
- ・教職員と地域の方々が連携した活動を推進することができ、学校と地域をつなぐ活動にすることができました。

地域の教育資源や地域人材を活用した土曜授業の充実

白糠町立庶路中学校 (平成 29 年度 年 7 回実施)

本校の土曜授業のねらい

- ・本校は、平成 30 年 4 月から義務教育学校となり、家庭や地域とともにある学校づくりを進めていくことから、土曜日に地域の人材や教育資源を活用したふるさと教育の充実を図り、学校、家庭、地域が一体となって生徒を育む意識を高める。

【海岸清掃】

- ・庶路小学校、PTA、町内会、役場職員など学校、家庭、地域が連携し、庶路海岸の清掃活動に取り組んだ。
- ・年齢や立場の異なる様々な方と協働することで、自然環境は相互協力や相互理解によって守られていることを実感することができた。



清掃活動に取り組む様子

【生徒の声】

これだけのゴミは1人では拾えない。自然は地域の人たちが守っていかなければならないと思った。

【ふるさと調理実習】

- ・土曜参観日に、白糠漁業協同組合女性部の方々に講師に、地域で水揚げされたイカを使った調理実習を行った。
- ・地域の人材や食材を活用した活動を行うことで、生徒や保護者が地産地消の重要性やふるさとの魅力を再認識することができた。



イカを調理する様子

【生徒の声】

白糠産のイカはおいしい。今度は家で調理してみたい。

【保護者の声】

子どもと一緒に家でも料理をしてみたい。

【人権教育】

- ・土曜参観日に、地域の人権擁護委員を講師に、「命の大切さ」「思いやりの気持ち」「やさしい心」について考える人権学習を行った。
- ・生徒は人権尊重の基本的な考えを知り、保護者は生徒の学校での学習を踏まえ、家庭での教育に生かす意識を高めることができた。



人権の尊重について考える様子

【保護者の声】

自分の子どもがどんなことを考えているのか知ることができてよかった。家庭でも人権について一緒に考えたい。